

# 都小 研会報

・発行所  
東京都小学校社会科研究会  
東京都板橋区大谷口上町43-1  
・発行人 石橋昌雄  
・編集人 山田裕

## 高知大会の成果を生かす

東京都小学校社会科研究会副会長  
板橋区立上板橋第二小学校長

野津康弘



豊かな自然と温暖な気候に恵まれ、また、坂本龍馬などの維新の志士を多く輩出した進取・自主の気風みなぎる高知県で、第五十回全小社研高知大会が開催されました。学習指導要領実施二年目の年を迎え、学習指導要領の趣旨を踏まえた社会科授業の定着をめざしての開催でした。

一日目の高知県立県民文化ホールでは、全体会・記念講演が行われました。記念講演の講師には政治ジャーナリストの後藤謙次氏を迎え、「メディアは事実を

を進め提案されました。

### 2 研究の内容

四つの目指す子ども像を設定し、次の三つの視点から研究を深めた実践が発表されました。

①『人・もの・こと・地域』に

学ぶ教材の開発、②子どもが自ら学び方を身に付けることのできる学習活動の展開、③社会を切り拓く力を育てる指導と評価

### 3 公開授業・授業提案・課題提案について

大会二日目の公開授業は、南国市立岡豊小学校、高知市立昭和小学校で行われました。両校とも、地域教材の開発を通して主体的な学びを引き出し、問題解決的な学習の中で、子ども達が互いの考えや思いを伝え合いながら追究していく姿がありました。社会科での言語活動の充実を図り、学びを深め合う授業をみる事ができました。

東京からは岡豊小学校の課題提案で、六年部会の仲純平教諭が「自ら調べ・考え・表現し、社会認識を深める学習」をテーマに「条約改正と国際的地位の向上」の実践を発表しました。石川大会の成果を引き継ぎ、次年度の東京大会に生かしていきたいと思えます。

## 高知大会報告

全国小学校社会科研究会事務局長  
葛飾区立上小松小学校校長 宇田川 嘉一

第五〇回全小社研高知大会は十一月八日・九日に「人々の営みに学び、社会を切り拓く力を育てる社会科学習」を主題とし南国市・高知市で開催されました。参加者数はのべ二二〇〇名(速報値)にのぼりました。

第一日目の全体会が高知県立県民文化ホールで、二日目の会場別研究会は南国市立岡豊小・高知市立昭和の小の二会場で開催されました。

全体会の基調提案では、急激に変化する社会の中で大震災以後の日本を生きていく子どもを育てることをねらいとした社会科学習について、基本的な考え方が発表されました。

発表では「人々の営みから学ぶこととは…」「社会を切り拓く力とは…」と研究の柱となる概念などを若い教員の方々にも分かりやすく示されました。

文部科学省教科調査官である澤井陽介先生からは学習指導要領実施二年目の今、高知県の研究からいかに多くのことを学ぶ

ことができるかとの指導講評をいただきました。

次に、政治ジャーナリスト・後藤謙次氏から、「メディアは事実を伝えているのか」情報を見極める力」との演題で豊富な経験に基づいたご講演をいただきました。「ニュースは教材の宝庫。いかに噛み砕いて伝えるか。子どもに社会を見る目を育てて欲しい」との言葉が今も印象に残っています。

二日目の会場別研究会では、両会場とも大会主題を受けた授業が参加者の熱い視線の中で展開されました。高知県らしい地域素材を教材化した創意あふれる実践に加え、話し合い活動を活発に行う子どもの姿から、参加者が見るものが多い授業でした。また学年別授業研究会、学

年別課題提案も最後まで活発な協議が展開されました。大会運営面でも多くを学ぶことができ、高知県の方々の周到な準備やきめ細やかな対応にあ

特集

全小社研・高知大会に学ぶ

第一会場

南国市立岡豊小学校

一 はじめに

岡豊小学校は、表現力の育成に重点を置いた研究に加え、一昨年前から社会科・生活科を窓口

に研究に取り組んできた。本校の主題は、「自ら考え、共に学び合い、表現する子どもの育成」

二 公開授業

ここでは、第五学年「森林と生きる」の授業を報告する。指導計画10時間の9時間目。学習過程の「つかむ、調べる、考える、広げる」の「広げる」段階。

教材として、個人所有の森林に

まで税金を投入することの是非を話し合い、森林の公益性に気付かせることをねらった授業である。

三 全体会

全体会では、会場校主題と三つの視点を中心に基調提案が行われた。視点1については、地域教材、体験的活動、価値ある資料の選定、視点2では、書く力を育てるノート作りと板書、話す・聞く力を育てる資料と発問、振り返りの場の設定、視点3では、問題解決型の学習の流れ、学習対象を自分事として捉える、とした具体的な取り組みが紹介された。

続く指導講話では、國學院大

学教授の安野功先生と東北福祉大学特任教授の有田和正先生よりご指導をいただいた。安野先生は、社会科の中で一番大事にしたい言葉として「公共」を挙げ、体験に基づいた言語活動の要に、公共(みんな)

があると力説された。課題として、①公共を大事にする学習の条件、②子どもの社会的見方・

考え方、③ゴールとしての中学校社会科のねらい、それぞれの明確化の必要性を指摘された。

有田先生は、教育に求められているのは「新しい発想」であるとして、本校の研究の良さを四点挙げられた。それらは、①「?」(はてな)で貫かれている授業、②教科書を応用・発展させた授業、③想像力・創造力を

つけさせる授業、④ねらいが明確な授業、であった。

四 学年別授業研究会

ここでは、五年授業研究会の質疑を中心に報告する。

質問・意見の主なもの、「五年生が税金をどこまで理解しているか」「森林が不必要であることの習得がなく、討論にはならない」「学習問題が子どものものになっていない」等で、鋭い質問・意見が続いた。助言者の白川景子校長先生からは、「体験と結び付けたことで、森林を身近に感じる。森林環境税は有効な教材であり、それまでの学びをまとめ役割をもつ。それを詳しく扱えば討論になる。」とのご

指導があった。

五 学年別課題研究会

ここでは、第六学年B研究会の板橋区立志村第二小学校仲純平教諭の発表を報告する。

研究主題「自ら調べ・考え・社会認識を深める学習」で、小単元名は、「条約改正と国際的地位の向上」であった。高知大会の研究主題とのかかわりを意識しながら、都小社研の研究主題の具現化を図った実践で、学習過程の「ふかめる」の位置付けや、教材及び学習活動の工夫が明確に打ち出されたものであった。

質問・意見の主なものは、

「ニュース原稿を書く活動の利点と課題は何か」「予想と学習問題をどのように結び付けたか」「社会参画の資質・能力は、どのように育てるか」等であった。助言者の足立区立洲江小の横山準一校長先生からは、「本実践は、教材開発として錦絵やビゴの風刺画の活用、学習活動の工夫としてニュース原稿の作成が効果的であった。ニュース原稿は、毎時間書くため、形成的評価にも有効である。問いの連続性を重視した「ふかめる」は、来年

度の東京大会の中心的な提案の一つである」とのご指導があり、東京大会への参加を呼びかけて締めくくった。

六 終わりに

高知大会の主題と会場校主題との関係性が見えにくかった部分はあったが、各学級で公開された授業の充実と子ども達の鍛えられた姿が高知大会の力強い主張として伝わった。東京大会の成功に向けて、さらなる研究主題への共通理解と、工夫を凝らした授業の創造の必要性を痛感した。

北区立東十条小学校

校長 関口 修司



第二会場

高知市立昭和小学校

一 はじめに

昭和小学校は、高知市の中央部に位置し、周囲を鏡川、江ノ口川、国分川に囲まれている。近隣には地球三三番地や坂本龍馬ゆかりの武市半平太道場跡、自由民権運動の関係史跡がある、昭和七年の開校以来研究の盛んな学校である。

また、高知県立坂本龍馬記念館の龍馬学習指定校として、実践を重ねている。

研究主題を「自ら学ぶ子の育成」自ら考え、学びを深め合う授業づくり」とし、社会の問題解決に向けて、自ら考え、適切に判断し、行動できる子どもの育成を目指して研究を推進している。

二 公開授業

社会科の授業は三年生以上各二学級で公開された。

本校では、主題に迫るために、「自ら考え、学びを深める授業」を「学習問題の解決に向けて主体的に取り組む、社会的事象・仲間・自己と豊かにかかわり合っているが、学びを深めることができる授業」と位置付けている。そのために、「主体的な学びを作

りだす教材の工夫」「自ら学ぶ力を育てる学習活動」「学びを深め、かわりを生かす授業研究」の三つの視点を掲げている。公開授業では、どの学級でも研究の視点を踏まえた、「自ら考え、学びを深め合う授業」が展開されていた。

参観した六年生の「新しい時代の幕開け」郷土の先人 坂本龍馬」の授業では、坂本龍馬や他の先人たちの業績を調べ、先人たちの思いや願い、当時の社会の様子について児童が活発に話し合い、学びを深めていた。自分の考えの根拠を明確にし、



友達の意見もよく聞いている姿からは、本校の目指す学びが、一人一人の児童に身に付いていること、日々の学習が積み重ねられていることが強く感じられた。

三 全体会

研究主題にそって、研究の概要が発表され、早稲田大学教育・総合科学学術院教授小林宏己先生より指導講評が行われた。

小林教授は、昭和小学校の研究に長きにわたり携わってきており、これまでの昭和小学校の研究成果を踏まえた上で五つの点から講演された。

- 一つは「よい授業のためのクラスづくり」についてである。
- 二つは「自学と協学の学びのサイクル」についてである。
- 三つは「なぜ、グループ学習が求められるのか」についてである。
- 四つは、「体験活動、ノートの活用」についてである。
- 五つは、「構築教材(N次教材)」についてである。

四 学年別授業研究会

授業を参観した六年分科会に参加した。「新しい時代の幕開け」の単元である。新しい時代をつくるために活躍した、坂本龍馬

と先人たちの業績と当時の社会の様子を理解する、郷土史と日本の歴史を結びつけた単元構成である。一組は「船中八策の中で、自分が一番大切だと思う策を選んで理由を伝えよう」三組は「海援隊約規の中で、自分が「新しい考え方」だと思ふ規則を選んで理由を伝えよう」という課題で学習が展開された。

研究協議では、単元についてと児童の学びについて質疑がなされた。

単元については、地域の特色を生かした人物学習であり、学習指導要領でおさえるべき内容に郷土の先人たちの業績を入れて込んでいくということであった。社会科の時間だけではなく、他教科・領域とも関連を図っている。

一組・三組とも児童が理由や根拠をもとに明確に自分の考えを伝え合い、学びを深め合うことができていた。児童の学びについては、「学びのリレーシート」を活用し、児童の考えやつながりを捉えていることが説明された。また、「学びシート」も授業前後で分析し、児童の見取りや自己評価・相互評価にかしている。

五 学年別課題研究会

四年B部会に参加した。

沖繩県那覇市立石嶺小学校の平良紀子先生、瀬底緑先生から「社会的な見方、考え方を育てる指導の工夫」「石嶺町の旗頭」の学習を通して」の実践報告があった。地域素材をいかした体験活動を通して学習することが、地域社会への誇りと愛情を育むことにつながるという提案がされた。

埼玉県さいたま市立大谷口小学校山手美保先生から、「よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培う社会科学習」「くらづくりの残る川越市」の人々の働きの教材化を通して」の実践報告があった。「表現しながら考える」場面を意図的に設定していったことは社会的事象のもつ意味を考えるのに有効であったという提案がされた。

六 終わりに

昭和小学校の先生方の研究への熱心な取り組みが強く心に残った。自分の考えを述べ、学び合っていく児童の姿に、着実に力がついていることを感じた。

東大和市立第七小学校

校長 次岡 孝幸

高知大会・課題別提案(東京)  
第一会場 学年別課題研究会第六学年B分科会

高知大会研究主題

人々の営みに学び、社会を切り拓く力を育てる社会科学習

一 研究主題とのかかわり

本実践は、条約改正にかかわる内容を小單元化し、明治時代を大きな一つの流れとしてとらえさせることで、近代国家への成長と欧米列強との関係を考えながら、国力を高め国際的地位を高めていった日本を理解させることを目指した。国際社会に船出した明治政府にとって不平等条約の改正という大きな課題を乗り越え、近代日本の礎を築いた人々の活躍について学ぶことが、高知大会研究主題「人々の営みに学び、社会を切り拓く力を育てる社会科学習」につながるのではないかと考えた。

二 研究の視点

①学習過程の工夫

「つかむ」段階では、不平等条約がどのような弊害をもたらしていたかを理解できる工夫をし、「調べる」段階では、条約改正にかかわりのある出来事や人物を様々な資料を使って調べ整理できるようにした。「まとめる」

では、条約改正にかかわりのあった出来事のもつ社会的な意味を話し合い日本の変化について理解できるようにした。そして特に「ふかめる」では、視点を變えて欧米の側から日本の変化を見直す活動を行い、国際社会の中の日本の成長、これからのあゆみについて考えさせた。

②教材の工夫

ア、導入資料の工夫

「ノルマントン号事件」を導入人で使うが、コレラの検疫を巡る「ヘスベリア号事件」といった出来事についても触れることで、「治外法権」が幅広い問題だったことをつかませようと考えた。また、不平等条約のもう一つの問題点「関税自主権」についても、今回は図やマンガを使って児童に提示して、問題意識を高める工夫を行った。

イ、視点を變えて考えさせる資料の工夫

「ふかめる」段階では、2枚の風刺画を提示する。この風刺

画を通して外国が日本を見る目はどのように変化していったのかをとらえさせたいと考えた。児童に「外国から見た日本」という視点を与え、条約改正にかかわりのあった出来事や日本の変化をふり返ることで、日本の国力の高まりが国際的地位の向上に結びついたことを考えさせることを意図した。

③学習活動の工夫

ア、ニュース原稿を書く活動

「調べる」段階では、調べた内容を記録する際に「ニュース原稿を書く」という活動を設定した。このようにすることで、歴史に身を置き、聞く人を意識し「いつ・どこで・だれが・何を・どのようにしたのか」を整理しながら記述できるようにすると考えた。

イ、海外へのインタビューを考える活動

「ふかめる」段階では、条約改正の意味を考え、ニュース原稿の終わりに意見として加える活動を行う。「海外の人への仮想インタビューを行う」という場を設定し、当時の外国人に語るせる活動を通して、日本が近代化したこと、欧米の仲間入りをしたことに気付かせることがで

きると考えた。  
三 研究の実際  
つかむ

日本が不平等条約を結んでいった背景を知り、どのように条約を改正していったのか予想し、学習問題を立てる。

調べる

条約改正までの出来事、条約改正に活躍した日本人について調べる。

まとめる

ニュース原稿をグループで交流し、条約改正までの歩みを各自で一つの原稿にまとめる。

ふかめる

条約改正直後の日本について、私たちの質問にアメリカ大統領はどんな話をするか考え、ニュース原稿を発表する。

四 研究の成果と課題

○成果

導入で提示する資料を工夫し、不平等条約や当時の日本に対する問題意識を高めたことで、子どもたちが自ら調べて学習問題を解決していく意欲を引き出すことができた。

ニュース原稿を書く活動は、子どもたちを当時の人の立場に立たせて学習を進めていくのに効果的であった。さらに、調べ

たたくさんの事柄全てが原稿には書ききれないので、内容を取捨選択し、友達に伝えなければならぬことだけに絞って表現することができていた。ニュースという形式を意識することで、携わった人々の努力や事件の背景を盛り込んだ文章となり、社会的事象の意味を考え、表現していく能力を高める上で効果的だった。

また、「ふかめる」段階で、視点を海外に移しアメリカ大統領にインタビューすることを通して日本の近代化や欧米の仲間入りを果たしたことへの理解を深め、条約改正の意味を多面的に考え、社会認識を深めることができた。

○課題

「ふかめる」段階では、「まとめる」段階まで出てこなかったタフト大統領への戸惑いのような質問をしたらよいのかという難しさがああり、インタビュー活動に時間がかかってしまった。また、「ふかめる」段階で、どのような人物や事象を取り上げるのが社会認識を深めていくのに効果的なのか考えていく必要がある。

板橋区立志村第二小学校

仲 純平

第五十回全小社研

高知大会巡検

高知アイヌ・早明浦ダム  
・ 天空の郷を訪ねて

今回は、OBの先生方七名のご参加をいただき、総勢十五名での巡検となりました。

二日目終了後、旧土佐藩主山内家下屋敷跡に建つ、三翠園に集合。恒例の懇親会では、土佐のお座敷遊びやよさこい鳴子踊りもあり、盛り上がりました。

◎高知アイヌ

お客様を感動させたい。おいしさを走って探すカンパニー。

「打たん太鼓は鳴らん」代表取締役役員町文也氏の座右の銘、子供の頃からお母さんに言われ、大きな影響を受けた言葉です。

農作物は収穫前に生産者を直接訪ね、畑の条件や栽培方法、農薬の有無など確認した上で契約することなど、お客様に安心して食べていただくために素材選びに奔走し、土佐の風土の中で、いい素材を探し続けています。感動した話でした。

◎早明浦ダム

早明浦ダムは、高知県長岡郡本山町と土佐郡土佐町にまたがる、一級河川・吉野川本流上流部に建設された四国地方最大のダムです。このダムの水運用は四国地方の経済・市民生活に極めて多大な影響を及ぼし、このため「四国のいのち」とも呼ばれ、四国地方の心臓的な役割を果たしています。「ダム湖百選」に選ばれています。

◎天空の郷の棚田

四国山系の中央に位置する高峻の地「本山町」で稲作が始まったのは弥生時代。現在まで大切に守られ、伝承されてきました。その九割が棚田です。のどかな風景は見る人の心も和ませます。棚田の作業効率化は決して良くありません。

しかし、山々がもたらす寒暖差と清澄な水。室戸海洋深層水を使い独特の甘みをだすなど、世界一の米を作るといふ生産者の情熱と努力が、美味しいお米を育てています。

今回の巡検は、高知の農産物で世界中の人を感動させ、幸せにしたいという願いをもった人々を巡る旅でした。これらの人々の生き方を子供たちに伝えたいと思います。

板橋区立向原小学校

校長 河野えつ子

都小社研

今後の研究授業及び研究発表について

都小社研調査研究部長  
立川市立第四小学校

校長 月岡正明

全小社研東京大会を来年度に控え、各学年部会とも精力的に実践を重ねています。今年度の実践も含め、今まで行つた実践を、東京大会では、課題提案として発表します。そのための検討も各学年部会や課題提案の担当となった区市社会研究会でなされています。こうした取り組みを通して、東京都の社会科研究がより活性化されることを願っています。

現在の実践状況と実践予定、併せて本年度の研究発表会(全国大会・プレ研究発表会)の紹介をいたします。

☆各学年部会の実践状況、及び実践予定

【第三学年部会】  
◇十一月一日(木)  
「商店の仕事を調べよう」  
品川区立山中小学校 三木田 誠教諭  
講師 東京学芸大学講師 梶井貢先生  
◇十一月二十六日(月)  
「まちの人々の仕事  
工場で働く人々」  
板橋区立三園小学校 清田昌弘教諭

【第四学年部会】  
◇六月二十八日(木)  
「こみのしまつと再利用」  
品川区立城南小学校 桑畑大樹主任教諭  
講師 元都小社研会長 桑原利夫先生  
◇十二月七日(金)  
「東京をきずいた人 後藤新平」  
江戸川区立土小岩小学校 櫻井 愛教諭  
講師 國學院大学教授 安野 功先生  
◇1月〜2月実践予定  
「長く守り続けられてきた  
自然を生かした人々の  
くらし 高尾」  
町田市立町田第六小学校 佐藤樹里教諭

【第五学年部会】  
◇五月十四日(月)  
「国土の地形や気候の  
特色と人々のくらし」  
武蔵野市立本宿小学校 荻原 渚教諭  
講師 國學院大学教授 安野 功先生  
◇十一月二十一日(火)  
「長く続いた戦争と  
人々のくらし」  
練馬区立大泉第六小学校 窪 直樹教諭  
講師 未定

☆平成二十四年度研究発表会  
※今年度の都小社研研究発表会は、東京大会のプレ研究発表会を兼ねます。  
○会場 板橋区立板橋第十小学校  
○日時 平成二十四年二月二十二日 午後一時三十分授業開始  
○講師 國學院大学教授 安野 功先生  
【会場案内】  
板橋区大谷口上町四十三-1  
JR池袋駅西口より  
「日大病院行」バス約十分  
電話 03-3956-8242

板橋区立向原小学校

東久留米市立第七小学校 福成利之教諭

講師 明星大学准教授 泉 長頭先生

【第六学年部会】  
◇五月三十一日(木)  
「天皇中心の国づくり」  
杉並区立堀之内小学校 横田富信主任教諭  
講師 東京学芸大学講師 梶井 貢先生

◇九月二十一日(金)  
「活気あふれる町人の文化」  
世田谷区立北沢小学校 田内 利美教諭  
講師 帝京大学准教授 中田正弘先生  
◇十一月二十一日(火)  
「長く続いた戦争と  
人々のくらし」

講師 未定

港区立港陽小学校 富樫 学 教諭

夏の施設見学会を終えて

都小社研事業部部長 齊藤 涼子  
江戸川区立西小松川小学校校長

社会科授業に役立つ見学会

①七月二十三日(月)：化学工業

花王川崎工場(川崎市)

昭和電工川崎工場(川崎市)

②七月二十四日(火)：ガス施設

環境エネルギー館(横浜市)

新宿地域冷暖房センター

③七月二十五日(水)：製鉄工業

JFEスチール東日本製鉄所(千葉市)東芝科学館(川崎市)

④七月二十六日(木)：水道施設

小河内ダム・奥多摩水とみどりのふれあい館・小作浄水場・羽村取水堰(羽村市)

⑤七月二十七日(金)：製紙工業

三菜レギュレータ(株)東京工場・日本民間園(川崎市)

⑥七月三十日(月)：酪農

松下牧場(朝霧高原)・あさぎりフードパーク(富士宮市)

⑦七月三十一日(火)：石油工業

富士石油(株)袖ヶ浦精油所 東京みなと館・東京港見学

化学工業施設見学会に参加して

大田区立南町小学校 村山泰子

花王川崎工場では、水環境を良くするために、洗剤の無リン化に成功し、その後も分解されやすい成分の開発を行っていること、ごみ問題、省資源にも取り組み続け、18%のごみの削減ができたことが分かりました。

昭和電工川崎工場は1日195トンのプラスチック処理できる日本有数のリサイクル工場です。様々なプラスチックが分別せずに破砕され、アンモニアを製造されている工程を見学することができました。企業努力や直面する課題を説明され、リサイクル学習の大切さを痛感しました。

天然ガス施設見学会に参加して

青梅市立河辺小学校 木村 治

まずは横浜市鶴見区にある環境エネルギー館の見学。触れる展示や多様なワークシヨップがある参加体験型施設で、屋上の大きなピオトープにびっくり。

都庁や超高層ビルの冷暖房施設はどこにあるの?こんな疑問に答えてくれる午後の見学会。

新宿に戻り新宿パークタワーの地下へ。都庁や新宿超高層ビル群の冷暖房や給湯を、ここ一箇所でを行っています。天然ガスが燃料で、供給延床面積世界一の二百二十万㎡。省スペースや省エネ、環境性に優れた地域冷暖房の重要性を実感しました。

酪農見学会に参加して

江戸川区立三之江小学校 森 由紀子

この研修では、実際にウシを触らせていただきウシの温かさを感じ、乳搾りとバター作りを体験させていただいた。

社会科指導に必要な教材の開発とその研究という点においては、

課題が残っている。今後どのような生かしていくことができるのか模索中である。

バスの中でのクイズ大会には、童心に返って楽しく参加できた。楽しみながらポイントがおさえられるので、すぐに実践していきたいと思う。

研修に参加させていただき、教材開発の面白さを感じた。

水道施設見学会に参加して

西東京市立泉小学校 宇野千鶴子

今年度四年生を担任し、水の大切さを子供たちに学ばせたいと思い、暑い七月二十六日、快適な観光バスに乗り、「小河内ダム」「奥多摩水と緑のふれあい館」「小作浄水場」「羽村取水堰」を見学させて頂きました。

「小河内ダム」「羽村取水堰」の見学を通して、「水」に対する先人の熱い思いと知恵がひしひしと伝わってきました。また、浄水場では「安全でおいしい水」を都民に提供するために日夜不断の努力をすることがよくわかりました。子供たちと2学期の学習が楽しみなった見学会でした。

製鉄工場施設見学会に参加して

江戸川区立第五葛西小学校 伊藤 康明

真つ赤に熱をもった大きな鉄の塊が、目の前で段々と伸ばされていく様子はまさに圧巻であった。まるで鉄の塊が命をもっているように、大変力強く感じられた。

JFEスチール東日本製鉄所の見学を通して、改めて日本の技術力の高さを実感した。身の回りにあるたくさん鉄鋼製品は、世界トップレベルの技術によって作り出され、そして私たちのものに届けられているということを考えると、鉄鋼業に関わる方々への敬意の念を感じると共に、私たちが住むこの日本という国を大変誇らしくも思えた。

ダイナミックな「ものづくり」への感動が強く感じられた見学会でした。

製紙工場を見学して

品川区立浜川小学校 鈴木えり子

7月27日(金)、三菜レギュレーター株式会社東京工場を見学させて頂いた。この施設見学を通して、児童への指導に生かせる教材を見付けられることを期待して参加した。

成果の一つは、製品の製造工程を体感できたことだ。トイレットペーパーができるまでの製造工程は、写真や資料で見ただけではなかなか実感が湧かないものだが、今回、工場ですら自分よりはるかに大

きなトイレットペーパーの原紙に直接触れてみて、初めてトイレットペーパーが作られるまでの製造工程を具体的に実感することができた。

もう一つは、資源循環型の生産を行う新しい取り組みを理解できたことだ。当日は、古紙が集められた場所から見学が始まり、その古紙が生産の過程で徐々に形を変え、新しいトイレットペーパーに生まれ変わる姿を目の当たりにした。まさに、古紙はゴミではなく貴重な資源であることが理解できた。いずれもこの工場に見学に行かなければ分からないことばかりであった。この施設見学会で多くの発見ができ大変嬉しく思う。

石油精製工場施設見学会に参加して

世田谷区立山崎小学校 塚島 敬太

普段の生活では見えない仕事の見学は、貴重な体験だった。石油精製工場では、2万klのタンク、沖合7kmから続く海底パイプライン、高さ50mの蒸留塔など驚くことばかりだった。コンピュータ管理の工場でも、点検などでは働く人々の感覚が大事にされていた。

東京みなと館では、「貿易物資の99.7%が海運に担われている」という事実が驚くと共に、大量・長距離輸送に特化した海運の力強さを感じた。豊かで恵まれた生活を支えてくださる人に触れる見学会だった。

